

長年にわたり市と連携
**民間の
教育・保育施設**

私立幼稚園・保育所
認定こども園・小規模保育事業所

**個性豊かな教育・保育方針で
子どもの成長を支える**

昭和40年ごろに始まった新興住宅地の開発に伴い、人口が急激に増加した川西市。多くの民間幼稚園と民間保育所が、市と相互に協力・補完しながら子どもたちの成長を支えてきました。

多くの園が特色ある教育・保育を行っています。英会話や音楽、スイミングなど、力を入れる内容や方針はさまざま。さらに、利便性の向上のため、一時預かり保育や通園バスなどの工夫がされています。

**公立に先駆けて
8つの認定こども園が開園**

認定こども園制度開始から4年。市内で初めての認定こども園が誕生しました。幼稚園・保育所で培ってきた幼児教育・保育のノウハウを取り入れ、公立に先駆けてスタートした民間認定こども園。現在では、8つの園が運営されています。幼稚園や保育所、小規模保育事業所とともに、市内の教育・保育を担っています。

【市内の私立認定こども園】
エンゼルキッズ清和台▷エンゼルキッズ山下（エンゼルキッズ清和台分園）▷美山こども園▷めぐみ学園▷川西けやき坂保育園▷あおい川西▷向陽台あすのこども園▷山下教会めぐみ園

市内の各施設一覧

各園の教育方針や保育目標などは、各施設のホームページに掲載。下記市ホームページからリンクしています。

幼稚園・
認定こども園



保育施設



市立認定こども園の整備へ

幼稚園・保育所機能を一体化した施設の新しい形

平成18年10月に始まった認定こども園制度。同園は、就学前の子どもへの幼児教育・保育の提供と、地域における子育て支援の2つの機能を持ち、都道府県などから認定を受けた施設です。市立認定こども園は幼保連携型（幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能を併せ持つ単一の施設）で、幼稚園教諭免許と保育士資格を持つ保育教諭が教育・保育を行います。

市立が抱える課題解決に向けた整備計画

市立幼稚園・保育所では、①市立幼稚園在籍園児の減少②待機児童の解消③施設の老朽化への対応④耐震対策の早期実施—主にこの4つの課題を抱えています。これらの課題解決をめざしながら、子どもたちにより良い教育・保育環境を提供するため、幼保を一体化した認定こども園への移行を推進。地域の拠点となる教育・保育・子育て支援施設としての再配置などを検討しています。

今年4月に開園した「市立牧の台みどりこども園」に続き、31年に加茂幼稚園と加茂保育所を一体化した「市立加茂こども園」を、32年に川西幼稚園と川西保育所を一体化した「(仮称)市立川西こども園」を開園予定です。また、川西北幼稚園と川西北保育所を一体化した市立認定こども園について、34年の開園をめざして検討を進めています。

市立加茂こども園完成イメージ



特集

コラボで子育て

認定こども園の教育・保育・子育て支援

長年教育・保育を行ってきた公立幼稚園と公立保育所
そこに新たに公立認定こども園が加わりました
教育と保育のノウハウを生かし
子育て支援機能も併せ持つ
施設づくりが進められています

問い合わせ 幼児教育保育課
☎(740)1175

市立認定こども園

幼稚園と保育所を引き継ぐ

新たな教育・保育施設

教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設
認定こども園が動き出しています

**生きる力を育んできた
幼稚園と保育所**

子どもたちにとって、生まれてから小学校に進学するまでの時間は、生きる力の基礎を身に付けるための大切な時間です。

心身がめざましく発達するとともに、身近な人や物との関わりが深まることで、豊かな感性や思考力が育まれていきます。

また、見るもの感じることで、全てが育ちにつながるこの時期は、人格形成の基礎と、その後の学校での生活や学習の基礎をつくる重要な時期ともいわれています。

市では、子どもたちに教育・

保育を提供する場所として、市立幼稚園と市立保育所を運営してきました。

幼稚園は、小学校以降の教育の基礎となる幼児期の教育を行う学校。3〜5歳児が昼過ぎごろまでの教育の時間を過ごします。

保育所は、就労や病気などの理由で、家庭での保育ができない保護者に代わり保育を行う児童福祉施設。保育が必要と認定を受けた0〜5歳児が、朝から夕方までの教育・保育の時間を過ごします。

どちらの施設でも遊びを中心とした主体性を育む、教育・保育を行ってきました。

しかし、核家族で仕事を持つ保護者や教育の充実を望む

家庭が増加。多様化するニーズに応えられ、また保護者の生活スタイルに制限されずに通える新たな施設が必要とされています。それが、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設、認定こども園です。

**幼保一体化を実現する
認定こども園が開園**

民間で8つの認定こども園が開園する中、30年4月に市内で公立として初めて幼保連携型の市立牧の台みどりこども園が誕生しました。昼過ぎごろまでの教育時間を利用する3〜5歳児と、保育認定を受け、比較的長時間の教育・

保育を利用する0〜5歳児、合わせて122人（9月1日現在）が通っています。また、園内に地域子育て支援ルーム「アップル」を開設し、在宅で子育て中の親子の支援も行っています。

現在、同園に続き、新たに市立加茂こども園など3園の整備を計画しています。

異なる性質と文化を持つ幼稚園と保育所の一体化。そして、家庭環境や生活リズムが異なる子ども同士、保護者同士の出会い。そこで、子どもたちがどのように過ごし、保護者は何を感じているのかを

市内初の市立認定こども園

幼保一体化の課題と子どもたちへの影響

開園から5カ月がたった牧の台みどりこども園
新たな環境での生活について
園長に話を聞きました



幼保一体化の難しさ

牧の台みどりこども園をオープンするまでに、2年以上も話し合いを行ってきました。長年幼稚園で働いてきた幼稚園教諭と保育所で働いてきた保育士とは、教育・保育へのアプローチが異なる部分もあります。日々のカリ

キュラムや建物の構造に至るまで、さまざまな意見が出るまで、さまざまな意見が出ました。

どの意見も、これまでの経験と子どもたちを一番に考えたもので、どちらが正しいということではないんです。お互いのいいところを生かし、新たな場所を作り上げることになりがいを感じています。

多くの保護者の方に園での様子を知っていただき、安心してもらえるように、例えば4月初めの参観日は3日間開催するなど工夫をしています。

子どもの柔軟性を育てる

3〜5歳児は、1号認定と2号認定(※)の子どもが混在する年齢別クラスで生活します。その中で、生活環境が異なる子ども同士の交流は、成長につながるかと期待しているところなんです。

例えば、午後1時半に帰る1号認定の子どもたちを見送る2号認定の子どもたちは、複雑な気持ちを抱くことがあるかもしれません。一方で、もっと遊びたいのに帰る1号認定の子どもたちもいます。いろいろな友達がいることに気が付くことで、物事を柔軟に受け止められる心と対応していく力が育つと考えています。

小学校教育との連携

小学生になる前にさまざまな経験をすることが、小学校との段差を乗り越えることにもつながると感じています。以前から、幼稚園・保育所では、小学校での学習に向か

うための意欲や忍耐力などの「非認知能力」を、遊びを通して身に付ける環境づくりを行ってきました。認定こども園では小学校に近い立地を生かして連携。子どもたち、そして教師間の交流も行っています。

食への関心を高める給食

園では、全ての園児に手作りの給食を提供しています。栄養管理はもちろん、子どもたちのアレルギーにも可能な限り対応しています。

お昼前になると、園内には給食の良い匂いが立ち込めます。子どもたちの五感を刺激します。「今日はなにかな？」というわくわく感が、食への関心を高めていくと感じています。

牧の台みどりこども園 園長

李田 恵美子



※ 園児の認定区分とは 1号・2号・3号認定

保育の必要性などの違いで3つの認定区分があります。3〜5歳で、短時間の教育・保育を利用する1号認定。3〜5歳で、長時間の教育・保育を利用する2号認定。0〜3歳で教育・保育を利用する3号認定です。

1・2号認定の子どもたちは、同じ学級で教育時間を過ごしています。



1_午前9時。子どもたちがそぞい、廊下まで笑い声が響き渡る 2_野菜をたっぷり使った給食 3_つかみ食でも食べやすいように、小さなおにぎりに用意 4_天気の良い日は、園庭で砂や水を使って遊ぶ 5_園庭の向こうには小学校。フェンス越しに会話が弾むことも 6_日々の生活の様子が保護者に伝わるよう、1日の出来事を園内に掲示 7_午後1時半。1日の遊びを振り返り、1号認定の子どもたちはリュックを背負って帰宅準備。保護者は外で待つ

INTERVIEW

牧の台みどりこども園に通う子どもたちの保護者の皆さんに、通園して感じたことを聞きました



1歳児の保護者
(3号認定)
春木佳子さん

進学まで同じ環境で過ごす

小学校に上がるまで同じ施設に通えるのがいいですね。歳の離れたお友達や多くの先生と関わって、言葉が増えたり苦手なプールが好きになったり、日々成長を感じています。



2・4歳児の保護者
(2・3号認定)
矢野毅史さん

仕事に関係なく通える園

1号認定で入園後に夫婦とも仕事に就くことになり、転園することなく2号認定に変わることができました。転園で子どもにストレスをかけたくなかったので、安心してます。



5歳児の保護者
(1号認定)
茂本千代さん

見知った先生がいて安心

牧の台幼稚園でお世話になった先生の多くがそのまま移ってきて、ほっとしました。降園時間は毎日午後1時半ですが、必要な時は一時預かりが利用できて便利ですね。



3歳児の保護者
(1号認定)
山田千児さん

先生から聞く日々の成長

園の雰囲気は、ゆったりした印象です。お迎えは毎日大変ですが、先生から子どもたちの様子を聞けるので、日々の成長がよく分かるようになりました。



2歳児の保護者
(3号認定)
菅野匠子さん

広い施設でアットホーム

緑保育所よりも部屋が広く、小さい子向けの芝生の園庭もあるので、のびのび遊んでいます。規模は大きくなっても、アットホームな雰囲気がいいところですね。



2・5歳児の保護者
(2・3号認定)
斎藤奈菜子さん

異年齢同士のクラスで成長

夏休みは3・4・5歳縦割りグループでの保育。教えてあげたり助け合ったり、いろんな経験を積んだようです。大所帯3歳への進級も、きっと大丈夫と覚えてきました。



幼児教育保育課 課長
丸野 俊一

公立・民間の連携を深め 未来を担う子どもたちを育む

今年度、ついに市立の認定こども園が完成しました。開園に向けて、26年度末に策定した「川西市子ども・子育て計画」に沿って、どのようなこども園をつくっていききたいか、現場の幼稚園教諭や保育士、調理師、用務員などと共にいろいろな角度から検討してきました。

また、保育・教育の内容をはじめ、施設のあり方や設備の内容など、先進事例の視察や先行して運営されている民間の認定こども園の状況を聞かせていただきながら、進めてきました。現場からの意見にもあるように、幼稚園と保育所それぞれのいいところを生かしていくことを常に考え、これからも期待に応えていきます。

今後も、民間の幼稚園や保育所、認定こども園、小規模保育事業所などの就学前乳幼児の教育・保育施設と、公立の幼稚園・保育所・認定こども園の連携を深め、これからの未来を支える子どもたちの育みに期待を寄せて取り組みます。また、市民の皆さんからも一層応援いただけるよう、本市の就学前教育・保育の質の向上を進めていきます。

子育て支援サービスのニーズを調査します

3,000人に送付
子育て支援のアンケートを実施

新たな「川西市子ども・子育て計画」の策定に向け、アンケート調査を実施します。

10月中旬ごろ、市内在住で0～12歳の未就学・就学児がいる家庭から、無作為に選んだ3,000人に送付。届いた人は、期日までに回答の返送をお願いします。

問い合わせ 子ども支援課 ☎(740)1246

市内8カ所で開所 地域の子育て支援拠点

幼稚園・保育所に通っていない子どもと保護者向けに、市立認定こども園・保育所や私立認定こども園・保育園で、プレイルームや園庭開放を実施しています。子どもたちが自由に遊べる他、保護者向けの情報提供や育児相談なども行います。



子育て支援ルーム「アップル」
 ところ: 牧の台みどりこども園(アップルまきのだい) ☎(794)7065 / 多田保育所(アップルただ) ☎(793)7724 / 川西中央保育所(アップルちゅうおう) ☎(759)2261 / 川西南保育所(アップルみなみ) ☎(759)7119

- ▶ **プレイルーム**
平日の午前9時～正午、午後0時半～2時半
- ▶ **園庭開放**
開催日時は園ごとに異なります。詳しくは市ホームページ、または各園へ
- ▶ **子育て相談**
子育て支援担当保育教諭や保育士が子育て相談に応じます。電話相談は、月～金曜日の午前10時～午後3時。来園相談は随時行っています(予約可)

地域子育て支援センター「タプリエ」
 ところ: バステル保育園 ☎(757)2440

- 下記の他、体験保育や育児相談などを実施。
- ▶ **室内開放**
月・火曜日の午前9時～正午、月～木曜日の午後1時～3時
- ▶ **園庭開放**
金曜日の午前9時半～午後0時半、1時～3時

地域子育て支援センター「キオラクラブ」
 ところ: 向陽台あすのこども園 ☎(744)0425

- 下記の他、育児相談を実施。
- ▶ **室内開放**
月～金曜日の午前10時～午後3時
- ▶ **園庭開放**
水曜日の午前10時～11時半

その他のプレイルーム
 ところ: キセラ川西プラザこども・若者ステーション ☎(740)1248
 平日の午前9時半～正午、午後0時半～3時
 ところ: アステ市民プラザ子育て支援ルーム ☎(740)1125
 毎日午前10時～午後4時

核家族の増加や地域住民との関係の希薄化により、孤立しがちな子育て家庭。地域での子育て支援が求められています。

アップルでは、親子同士の交流や相談への対応、子育て情報の提供などを行っています。ここで悩みを共有し、同年代の保護者同士で子どもの

また、園庭開放も実施し、屋外でのびのびと遊べる場所を提供しています。

実施している間は保育教諭が常駐。長年、教育・保育を

他にも、牧の台みどりこども園では牧の台小学校区コミュニティ推進協議会と青少年育成委員会の協力を得て「なかよしクラブ」を開催。牧の台幼稚園で行われていた取り組みを引き継ぎ、2・3歳児を対象に就学前の子どもたちが親子で遊べる機会を提供しています。

担ってきた専門性を生かし、子育ての悩みに応えています。離乳食や発達についての相談があれば、毎月巡回している栄養士や保健師との面談も設定。さらに、子育て関連の講座や施設の情報などを提供しています。

地域のニーズに応える支援

子育て親子が集まれる場所

認定こども園での地域子育て支援機能として、牧の台みどりこども園内に「アップルまきのだい」を開設。幼稚園や保育所などに通っていない未就学児と保護者が、気軽に集まれる場所を提供しています。

ことを話せる関係を築き、楽しく子育てができるように支援することを目的としています。

長年の経験を地域に生かす

アップルまきのだいには、ボールプールや積み木、絵本など、子どもたちが興味を持ち、発達を助けるおもちゃを用意しています。安全に遊べる環境を整えているため、保護者同士で会話を楽しむことができます。

子育て支援ルーム「アップル」 教育・保育のノウハウを 地域の子育て支援へ

幼稚園・保育所に通っていない子どもと保護者が一緒に遊び地域でつながりを作る場所
 経験・知識を持つ保育教諭が見守ります

アップルで子どもたちが着ける名札。保育教諭や訪れた保護者同士で、子育てを見守ります

